旬ニュース×実践訓練シリーズ

第 16 回目

～宮古島全域停電×4 時間半×あなたの会社は何時間耐えられますか～

電気が止まれば、クラウドも AI も止まる

- 第 1 回：猛暑×停電×就業時間が重なったとき夏のオフィスは地獄と化す？
  ～あなたの会社は大丈夫でしょうか？～
- 第 2 回：記録的短時間大雨情報×交通麻痺×重要業務
  ～帰宅か待機か、その判断が明暗を分ける～
- 第 3 回：遠地地震×津波警報×事業復旧判断～
  ～その時、あなたの会社は 24 時間をどう活用しますか？～
- 第 4 回：従業員への脅威情報 × 判断基準づくり × 組織防衛
  ～訓練が、あなたの会社の命を守る基準になる～
- 第 5 回：超巨大台風×内陸部直撃×72 時間の命を守る判断
  ～事前に分かっているのに、なぜ被害が出るのか～
- 第 6 回：ランサムウェア攻撃×基幹システム停止×72 時間の事業継続判断
  ～デジタル依存社会で、全システムが止まったとき～
- 第 7 回：サプライチェーン攻撃×物流基盤停止×連鎖する事業停止
- ～委託先の 1 社が止まると、なぜ業界全体が止まるのか～
- 第 8 回：地政学リスク×重要部品停止×連鎖する生産停止
- ～経済合理性を超えた政治リスクに、企業はどう備えるべきか～
- 第 9 回：新型インフルエンザ×職場集団感染×72 時間の生命と事業の判断
- ～「ただの風邪」が「致死率 20%」に変わったとき～
- 第 10 回：動き続く現場で火が出たら × 119 番通報 × 指揮命令系統
- ～避難訓練では見えない「初動の現実」～
- 第 11 回：思い込み × 初動判断 × 情報が揃わない現実
- ～避難訓練では見えない「初動の現実」～
- 第 12 回目：報告すべきか迷う情報 × 最初の一言 × 隠蔽と正直の分岐点
  ～「まだ確認中です」が組織を沈める～
- 第 13 回目：南海トラフ発災 × 現場の孤立 × 本社の指示を待てない 30 分
- ～「連絡が取れない」――あなたは 100 人の命をどう守りますか～
- 第 14 回目：「いません」は点検、「います」が訓練。
- ～生存確認の「その先」にある、エレベーター閉じ込め対応の泥臭い現実～
- 第 15 回目：「対岸の火事」が届く日
- ～地政学リスク×サイバー攻撃×あなたの会社の備え～
- 第 16 回目：電気が止まれば、クラウドも AI も止まる
- ～宮古島全域停電×4 時間半×あなたの会社は何時間耐えられますか～
-

目　次

1. 今回のシナリオ：判断の連鎖が始まる 90 分 3
2. 実践訓練：複合停止の初動を考える 4
【質問 1】最初の 30 分、あなたは何をしますか？ 4
3. 実践訓練：「気づかない依存」に向き合う 4
【質問 2】1 時間後、経営者からこう問われました 4
4. 振り返り：この訓練で何が見えましたか？ 5
5. 解説：2018 年と 2026 年の停電は「別物」です 5
6. まとめ：明日からできる 3 つのこと 5

第 16 回目

～宮古島全域停電×4 時間半×あなたの会社は何時間耐えられますか～

電気が止まれば、クラウドも AI も止まる

平日の午後 2 時過ぎ。宮古島全域の電気が、突然止まりました。

信号が消え、レジが止まり、キャッシュレス決済もアプリも使えなくなりました 。復旧までにかかった時間は 4 時間半です 。「4 時間半ならそれほど長くはない」と感じた方に、一つ問いかけます。

2018 年の北海道胆振東部地震では、多くの人が数時間で復旧すると予想していましたが、実際には全面復旧まで約 45 時間かかりました 。そして今、2018 年当時と決定的に違うことがあります。

この 8 年で、私たちの業務データはクラウドへ移行し、ChatGPT や Copilot などの AI が日々の仕事に静かに溶け込みました 。電気が止まれば、これらはすべて止まります。

電気が止まれば、これらがすべて止まります。

【旬なニュース】

2026 年 3 月 17 日午後 2 時 28 分、宮古島市内全域で最大約 2 万 6600 戸の停電が発生。原因は発電所構内の設備不具合とされ、午後 7 時 8 分に全面復旧した。電力という重要インフラの停止により、市民生活に大きな混乱が生じた。

あなたの会社の「停電 BCP（以降、BCP・停電対応マニュアルをまとめて「停電 BCP」と呼びます)」は、2018 年のままアップデートが止まっていませんか？

1. 今回のシナリオ：判断の連鎖が始まる 90 分

「停電です」「Slack が使えません」「クラウドにアクセスできません」

立て続けに届く報告に対し、何を優先し、どう動くかを考える訓練です。

【状況設定】

- 時刻：平日の午前 10 時
- 立場：総務・管理部門の責任者（BCP 担当兼務）
- 状況：社内で突然停電が発生。電力会社の復旧見込みは「数時間」

【状況付与：報告が重なる 90 分】

時刻・経過時間	何が起きたのか
10:00	停電発生。照明・PC・Wi-Fi ルーターが停止
10:05（5 分後）	部下より「Slack が使えない。連絡手段はどうするか」と報告
10:15（15 分後）	別の部下より「ChatGPT が使えない。資料作成と議事録はどうするか」と報告
10:30（30 分後）	営業より「受注システムにアクセスできず、顧客対応ができない」と報告
10:45（45 分後）	電力会社より「復旧までさらに数時間かかる見込み」と連絡
11:30（90 分後）	経営者から「今日の業務、どこまで続けられるか」と問われる

2. 実践訓練：複合停止の初動を考える

【質問 1】最初の 30 分、あなたは何をしますか？

停電発生直後。あなたは総務・管理部門の責任者（BCP 担当兼務）です。報告が次々と入ってきます。あなたは最初の 30 分で何をしますか。

＜下記より該当するものを選んでください。また、理由も考えてみてください＞

- □ 社員・在席者の安全を確認する
- □ UPS・非常用電源の稼働状況を確認する
- □ 停電 BCP を取り出して初動手順を確認する
- □ 顧客・取引先への連絡要否を判断する
- □ 業務継続できる作業とできない作業を仕分ける
- □ 特に決まった手順はなく、その場で判断する
- □ その他：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記述欄（理由・気づいたこと）

ここで立ち止まって確認してください。

あなたが選んだ行動の中に、「停電 BCP を取り出して確認する」はありましたか。

多くの会社で、停電 BCP は「存在するが、場所を誰も知らない」「最後に見たのがいつか分からない」という状態になっています。止まってから探すのでは、遅いのです。

3. 実践訓練：「気づかない依存」に向き合う

【質問 2】1 時間後、経営者からこう問われました

「今日の業務、どこまで続けられるか。Slack・クラウド・AI が全部止まった状態で、何時間、会社は動けるか」あなたは、どう答えますか？

＜下記より該当するものを選んでください。また、理由も考えてみてください＞

- □ 代替手順があり、大半の業務は継続できる
- □ 一部は代替できるが、止まる業務がある
- □ 代替手順が決まっていない業務がある
- □ 正直、把握していなかった
- □ その他：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記述欄（理由・気づいたこと）

＜この訓練を通じて、自社の「備え不備」として気づいたことがあれば記入してください＞

4. 振り返り：この訓練で何が見えましたか？

「ChatGPT が使えなくなる」と意識して仕事をしている人は、ほとんどいません。AI は気づかないうちに、業務の中に溶け込んでいます。議事録の要約。資料の下書き。翻訳。調べもの。一つひとつは小さな作業です。でも止まれば、業務は確実に滞ります。この訓練で問いたかったのは、手順の正しさではありません。自分たちがどこに依存しているか、自分たちで気づいているかどうかです。

＜以下の 4 点を確認してください。＞

現状点検項目	できている	要対応
停電 BCP があり、直近 1 年以内に内容を確認している	□	□
クラウド・AI が停止したときの代替手順を決めている	□	□
「何時間、クラウドなしで業務が成立するか」を把握している	□	□
停電 BCP を使った訓練を実施したことがある	□	□

5. 解説：2018 年と 2026 年の停電は「別物」です

(1)電気が戻っても、止まるものがある

2018 年の北海道ブラックアウトで止まったのは、物理的なインフラでした。照明、生産ライン、暖房、信号。電気が戻れば、業務は再開できました。

2026 年の停電では、電気が復旧しても止まるものがあります。クラウドサービスはサーバー側が復旧しなければ使えません。SaaS の受注システム、クラウド ERP は戻りません。AI アシスタントは、インターネットが途切れた瞬間に使えなくなります。

停電 BCP に「クラウド・AI 停止時の手順」が入っていないなら、それは 2018 年版のままです。

(2)「気づかない依存」が最も危ない

電話が使えなければ、誰でも気づきます。AI が使えなくなっても、最初は「少し不便」で済みます。でも 1 時間後、2 時間後に、業務の滞りとして現れます。

まず「今日、何に AI を使ったか」を書き出してみてください。それがあなたの会社の AI 依存マップです。

(3)「何時間耐えられるか」を数字で持つ

UPS の稼働時間は知っていても、クラウドなしで業務が成立する時間は、多くの会社で把握されていません。BCP に入れるべき数字は「耐久時間」です。

6. まとめ：明日からできる 3 つのこと

①. 今日使った AI ツールを書き出す

メールの下書き、会議の議事録、調べもの。意識せずに使っているものほど、止まったときに気づきます。書き出した瞬間、それがあなたの会社の AI 依存マップになります。

②. 停電 BCP に 1 行追加する

「クラウド・AI が停止した場合の代替手順は○○」この 1 行を加えるだけで、2018 年版の停電 BCP が 2026 年版に変わります。完璧な手順書は必要ありません。まず 1 行から始めてください。

③. 月 1 回・30 分、「クラウドなし・AI なし」テストをやる

会議室に集まって、30 分だけクラウドと AI を閉じてみてください。何が止まるかを、頭ではなく体で覚えることが、本当の備えです。訓練は、やってみて初めて意味を持ちます。

最後に

宮古島の停電は 4 時間半で復旧しました。北海道は 45 時間かかりました。次の停電が何時間続くかは、誰にもわかりません。

停電 BCP を作ることは、必要条件です。しかしそれだけでは、2026 年の危機には対応できません。

もう一つ、忘れてはならないことがあります。

私たちが日常的に使う AI の多くは、海外のサービスです。かつて石油が「止まれば経済が止まる」戦略物資だったように、AI への依存が深まるほど、その供給が止まったときのリスクは大きくなります。国際情勢の変化、規制、障害。理由は何であれ、AI が突然使えなくなる日は、来るかもしれません。

停電 BCP の次は、AI 断絶 BCP。

あなたの会社の備えは、そこまで届いていますか。

□補足資料ダウンロード